

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 374 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.12.29 (月) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>\*\*\*\*\* 発行部数 1040 部

\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> この1年を振り返って思うこと 渡邊 博

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<編集後記> 「私が決める」でなく「私たちが決める」

——稲垣文彦ほか著 小田切徳美 解題

『震災復興が語る農山村再生—地域づくりの本質』

(コモンズ刊)

---

<巻頭言> この1年を振り返って思うこと

---

この1年、あまりにもいろいろな出来事がありすぎて整理がつかないが、1ヶ月ほど前に、1年半ぶりに被災地を訪問し、あらためて今の日本社会を考え直すきっかけとなった。被災地は当然のことながら瓦礫の山は姿を消し、いたるところで土木、建築工事が行われ、ちょっと目には復興が確実に進んでいるかのように見える。しかし、移転先の土地の高騰は想像以上で、簡単には新しい住宅を入手できないとか、道路ひとつ経ただけで元の土地で生活再建できる人と移転を強要される人に分断され、かつてのコミュニティーの維持が難しくなっているなど、問題は山積みである。

そのなかで、移転先の宅地面積は農家、非農家にかかわらず100坪以下に制限されているという話には驚いた。被災者が言うには、行政も計画を請け負っている業者も、都市計画の専門家がほとんどで、農業や農村のことが全くわかっていないという。神戸の街は震災後20年経って見事に復興したかのように報じられることが多いようだが、地域の中小企業や小売店は打撃を受けたままで、大企業や公共の大規模施設がショウウインドウよろしく不都合な真実を覆い隠しているだけと指摘する人も少なくない。

過日逝去された俳優の菅原文太さんは、3.11 東日本大震災直後、これで日本は変わるのではないかと期待したが、結局何も変わらなかったと嘆いた。菅原さんは、富める者だけが富む社会、個より「国」の優先を強いる強権的社会、食や農業を軽視し、環境より「経済」を優先する社会に憂い、3.11 がこのような風潮に一石を投じることを期待し、そして裏切られたと感じたのだと思う。なし崩し的に進められる原発再開の動き、きな臭い秘密保護法、集団的自衛権、異常とも思える朝日新聞叩き（朝日新聞社に問題があったにしてもだ）、鎌首を持ち上げ始めた偏狭なナショナリズム、先の見えないアベノミクス。一体この国はどの道を進もうとしているのだろうか。

地方の衰退は想像以上に進んでいるなかで、来春には国辱的 TPP の妥結も日程に上がっている。このままでは日本の劣化は加速的に進んでしまうのではないかと心配になるが、嘆いてばかりではいけない。山崎農業研究所は、農業や農村、食や環境問題を通じ、あくまでは地域や市井の人々に軸足を置いて研究成果や提言を発信して行かなければならないと、今改めて気を引き締めているところである。

渡邊 博

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

---

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みろ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を  
埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい  
広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)
- No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい  
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)
- No.4 働きやすい作業環境の改善  
徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い  
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)
- No.6 デパートに進出した農村女性  
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)
- No.7 貧しさに学びころ豊かに生きる  
群馬県嬬恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市 人見きみ子さん (阿久津加居聞き書き)
- No.9 (近刊) 月に手が届く山間農家に嫁いで  
高知県土佐町 和田計美さん

---

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.133』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布 (有料: 1,000 円) いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

#### ■山崎農業研究所 40 周年記念

山崎農業研究所を支える力ー 40 年を振り返って◎安富六郎

〈山崎イズムを現代に問う〉

- ・研究活動における山崎イズム◎田淵俊雄
- ・研究をもっと技術に生かすために◎多田 敦
- ・山崎不二夫先生の全人間的な研究実践に学ぶ◎熊澤喜久雄
- ・コンサルタントと研究所◎横澤 誠

〈研究所活動をめぐって〉

- ・現地に学び現地とともに◎小泉浩郎
- ・定例研究会について◎石川秀勇
- ・「耕」「電子耕」単行本を通じた社会への発信◎田口 均
- ・研究所のこれからを考える◎渡邊 博

〈山崎（記念）農業賞受賞者はいま〉

- ・丸藤政吉〈第5回・1979年〉現場と共に＝「農村通信」創刊800号
- ・小林芳正〈第8回・1982年〉ふるさとへの想い—いまも消えることなく
- ・古野隆雄・久美子〈第21回・1996年〉合鴨家族の20年  
——進化し続ける合鴨水稲同時作
- ・鋸谷 茂〈第29回・2004年〉自然の摂理に基づいた林業技術を現場で実践
- ・榎本牧場〈第30回・2005年〉都市近郊で酪農の6次化をさらに展開
- ・大張物産センターなんでもや〈第32回・2007年〉  
地区民が求める「なんでもや」であり続けること
- ・野口種苗研究所・野口 勲〈第33回・2008年〉  
自然回帰の時代のなかで固定種の普及につとめる
- ・NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク〈第36回・2012年〉  
福島の有機農業再興のために

■第147 定例研究会 愛郷 vs 愛国— TPP 問題へのもう一つの視座◎宇根 豊  
〈書評〉宇根 豊 著『百姓学宣言』／徳永光俊

---

<編集後記> 「私が決める」でなく「私たちが決める」

——稲垣文彦ほか著 小田切徳美 解題

『震災復興が語る農山村再生—地域づくりの本質』

(コモンズ刊)

---

今年2014年は、中越大震災から10年になる。その節目の年に記念すべき本が刊行された。

中越大震災では農山村が甚大な被害をうけたが、それを契機に農山村では過疎化と高齢化が急速にすすんだ。震災は人口減少社会の扉を開けたといってもいい。そのため復興にはおおきな困難が予想された。そのことを本書では「右肩

下がり時代の復興」と表現している。だがそれから10年、現地では着実に復興がすすんでいる。

その鍵はどこにあるのか。震災直後から復興支援にふかくかかわってきた著者たちは、その経験とそこから導き出した理論そして実践のありようについて自在に語る。

注目すべき点はいくつもあるが、そのひとつが「ガバナンス」への注目である。ガバナンスは組織や社会のメンバーが主体的に関与する意思決定や合意形成のシステムであり、上からの法的拘束力のある統治システムである「ガバメント」とは対照的である。

新潟県では、大きなガバナンス（復興資金の仕組み）が、中くらいのガバナンス（中越復興市民会議の中間支援の仕組み）の成長を支え、小さなガバナンス（集落の仕組み）の潜在的な力を引き出したという。復興資金については県知事の指示により、現場のニーズに合わせた復興施策をその都度考えていくことにした点も見逃せない。

それともうひとつ。「地域づくりの足し算と掛け算」という考え方である。地域づくり（復興）には、足し算（住民の主体的意識を醸成するサポート）がまずあり、そこでの蓄積があつてこそ、掛け算（将来ビジョンづくりと事業導入のためのサポート）が成果を生み出すのだと。これは、コンサルティングなど専門家によるサポートをいきなり行なっても地域づくりはなかなかうまくいかないことと結びつく。

調査結果によれば、自発的にうごいた人々が多い集落ほど、復興感を感じる度合いが高いという。このことの意味するところはたいへん大きい。いま多くの地域でその活力低下が問題となっている。そんななか、さまざまな支援のもとに着実な地域づくりをすすめている新潟は、農山村のみならず都市に暮らす人々にとっても可能性を秘めたモデルといえるだろう。

先の衆議院選で圧勝し再選された安倍首相はなにかにつけて「私が責任をもって決める」と言う。しかし首相の判断力など高が知れている。「右肩下がり時代の復興」は全国共通の課題であるとはいえないか。大事なものは、「私たちが決める」ことだと思うのは私だけではあるまい。

稲垣文彦ほか著、小田切徳美 解題  
『震災復興が語る農山村再生  
—地域づくりの本質』（コモンズ刊）  
四六判／272 ページ  
2200 円＋税  
2014 年 10 月発行  
ISBN 978-4-86187-119-1

2014 年 12 月 29 日  
山崎農業研究所会員・田口 均  
yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575 円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）  
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 375 号の締め切りは 01 月 13 日、発行は 01 月 15 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 374 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.12.29（月）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*